

B—88 四季の着衣の傾向とその変化について
(第2報)

—日常着の実態調査 ブラウスについて—

三島女大家政 荒井 ふみ
○庄司 洋子
佐々木まさ子
千葉美恵子
今野寿美子

1. 第1報においては、日常の着衣状態について報告したが、今回は着用度の最も多いブラウスを取りあげ、その内容について検討をこころみた。

2. 調査対象者は、第1報と同様本学園学生を対象とする。調査用紙は、1.ブラウスの所持数について、2.通学用ブラウスについて、3.スタイルについて、の三項目に分け、それらをさらに分類し調査した。特に既製品については、着用者の体型と既製服のサイズとの関係、およびその良否について比較検討をこころみた。

3. 以上の結果家庭用ブラウスは、着古した物を利用し、外出用ブラウスは、1年生は購入点が多く、2年は新しい購入点数は少ないが所持数は多くなっている。既製品とサイズの関係は、メーカーによって異なり一様でないが、既製服が合う標準体型は割合に少なく、既製服サイズの各中間寸法が望まれる。既製服の背肩幅、袖幅などが広すぎて見苦しく着心地の悪い場合も多い。これらは身体の厚み分を考慮して裁断すべきであり、デザインについてはLサイズは中年向きのものが多くその数も限られている、など種々の明らかになった問題点を報告する。

なお下半身を覆うスカートについては調査を継続中である。